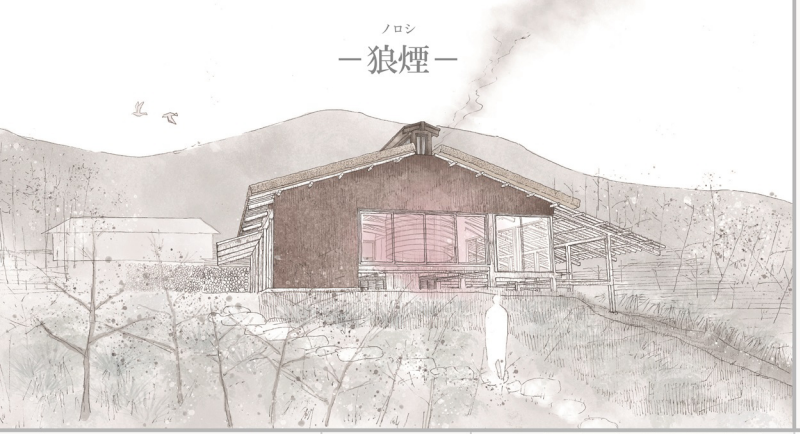
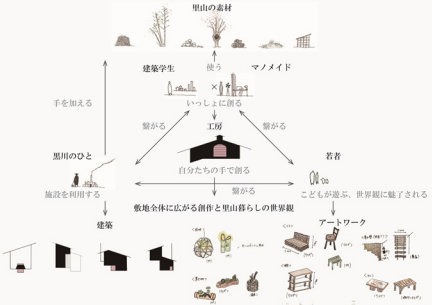
ノロシ

ー狼煙ー



01 プロジェクトー狼煙ー

里山にたなびく煙。それは日本の原風景であり、里山「黒川」の象徴です。炭焼きをはじめとした美しき里山文化を残す場所です。
しかし少子高齢化が進み、若い人たちが集落に入ってくることを望んでいます。そんな中、黒川郷人の活動は集落の希望の光であり、新たに拠点を置くマノメイドの活動もまた、集落に大きな影響を与えるはずです。
そこで里山の素材を使い、自らの手で作り上げたアートワークや建築を敷地いっぱいに広げ、里山暮らしの魅力を描き出す。
題して「狼煙」プロジェクトを提案します。ぼくたちとマノメイドの遊びかゝる創作によって、黒川と若者の拠点を作っていきます。
そうしてできた空間は、やがて新たな創作と暮らしの時間を育んでいきます。



02 微気候を拾い上げる建築

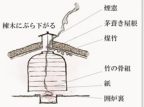
微気候とは、住まいとその周辺における局地的な空気の揺らぎ。
部屋に注ぐ木洩れ日、縁側に吹くそよ風、流れゆく樹の輪郭。
自分がいることで、働く自然。建築があることによって働く自然。
そんな些細な音びを感じられる建築を里山の素材を使い、自分たちの手で作っていく。

03 配置図

煙提灯の工房

囲炉裏 × 提灯 × 煙窓

薪や炭を燃やすときに微かに揺らぐ空気を纏し出すような、建築と家具のあいだのような空間を提灯によって作り出す。提灯によって暖味に区切られた空間を通り、煙窓から出ていく煙は時間と共に茅葺き屋根を纏し上げ、竹格子を美しい煤竹に染め上げる。



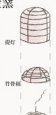
遊び心

炭が創り出す時間・空間

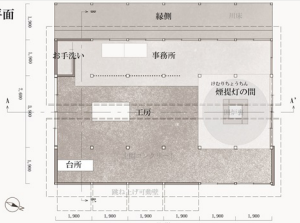
菊炭の光には黒川の時間が詰まっている。炭を作る里山に、炭が創り出す時間・空間を味わう場所を設ける。

浮かび上がる炭窯

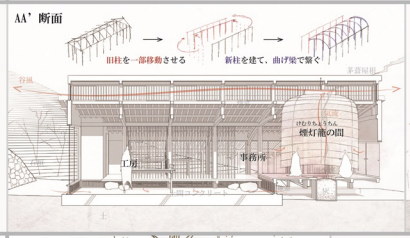
提灯はかつて黒川の山中に存在した窯業のスケールを宿している。およそ3×3mのドーム状の空間を立ち上げるような提灯は、炭窯を作るように竹を編み上げて輪郭を作る。



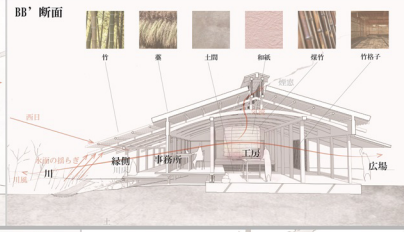
平面



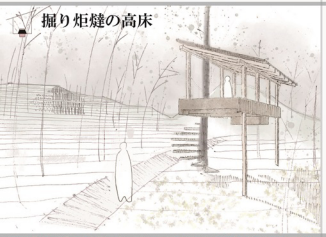
AA' 断面



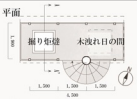
BB' 断面



掘り炬燵の高床



平面



炬燵 × 半屋外空間

炬燵は身体を芯から温めることができる。半屋外空間に炬燵を配置し、冬の空気に身を置く居場所を作る。

遊び心

大木に寄生する半屋外空間の高床は、やがて自然と同化し山へと消えていく。

AA' 断面

暖炉のツリーハウス

平面

暖炉
ロフト
900
900
900